平成２６年度　発掘調査速報展

はじめに

発掘調査速報展は、弘前市教育委員会が平成９年度から毎年開催しているもので、今回が１８回目となります。

今回紹介する遺跡は、平成２６年度に実施した市内７か所の発掘調査のうち、平安時代の竪穴住居跡や溝跡が多数発見された油伝（２）遺跡や、弘前公園整備に伴い調査を行った津軽氏の居城・史跡津軽氏城跡弘前城跡弘前城の計２か所です。

近年、開発により多くの遺跡が失われていく中、個性豊かな地域の歴史的・文化的な環境を形づくる重要な遺産である史跡や遺跡を訪れる人は増加しており、史跡・遺跡の保護に対する関心も高まってきています。

本速報展は、このような中で、市民のみなさまにとって遺跡がより身近なものであり、また、先人が残した貴重な文化遺産でもあることを感じていただくと共に、遺跡の保護についてご理解とご協力が得られることを願い、開催しているものです。

平成２７年３月現在で当市の遺跡数は４５０ヶ所を数えますが、まだまだ未発見の遺跡がたくさん存在するものと思われます。もし、皆さんの周りで土器や石器を発見したら、ぜひ教育委員会文化財課までご連絡くださるようお願い申し上げます。

史跡津軽氏城跡弘前城跡弘前城

作業風景

所 在 地：下白銀町１
主な時代：江戸時代
調査期間：平成 26 年９月 25 日
～11 月 28 日
調査面積：89 ㎡
調査原因：公園整備（利活用施設建設）
説　　明：

史跡津軽氏城跡弘前城跡弘前城は、慶長 16 年（1611）の弘前藩２代藩主・津軽信枚による築城から明治維新に伴う廃藩に至るまで津軽氏の居城として使用されました。本丸・二の丸・三の丸・北の郭・西の郭の６つの郭と、内濠・中濠・外濠の３重の濠で構成される江戸時代の城郭で、昭和 27 年（1952）には国の史跡に指定されています。

利活用施設の建設が計画されている二の丸南側において、園路や芝生の下に、江戸時代に属する建物の跡や陶磁器が残存していることが確認されました。

この試掘調査の結果を受けて、市では今後、施設建設予定地全体と周囲の発掘調査を実施して、馬場跡などの残存状況を確認する予定です。

油伝（２）遺跡

所 在 地：蒔苗字油伝
主な時代：縄文時代、平安時代～室町時代
調査期間：平成 26 年５月 26 日
～11 月 21 日
調査面積：1,100 ㎡
調査原因：市道整備
説　　明：

作業風景

油伝（２）遺跡は、弘前市街地の北西部、後長根川左岸の微高地上に位置しています。市道独狐蒔苗線整備に伴い、平成 24 年度から発掘調査を実施しています。

平成 26 年度の調査の結果、縄文時代の溝跡２条、平安時代の竪穴住居跡６軒、溝跡 28 条、土坑54 基、焼土遺構、室町時代以降の溝跡５条のほか、多数の柱穴跡を検出しました。遺物は、主に平安時代の土器（土師器や須恵器）のほか、縄文土器や室町時代頃と考えられる陶磁器も出土しています。竪穴住居跡からは炭化したコメやダイズ、鉄釘なども出土しています。

このことから、当遺跡は平安時代（10 世紀頃）を主体とする集落跡であることが分かっています。

平成 24～26 年度油伝（２）遺跡　航空写真（写真右が北）

＊＊

【展示に関する問い合せ先】
弘前市教育委員会　文化財課埋蔵文化財係（岩木庁舎３階）
〒036－1393 弘前市大字賀田一丁目１－１　　TEL 0172 - 82 - 1642（直通）　内線 768・381